

## 開催館名 和歌山県立紀伊風土記の丘

企画展名 令和7年度休館記念秋期特別展 遙かなる古墳時代の海へー紀伊半島と海をめぐる交流ー

開催期間：令和7年10月4日（土）～令和7年12月7日（日）



企画展示

開催状況写真①（ハイライト）



企画展示

開催状況写真②（ハイライト）



関連事業

開催状況写真①（ハイライト）



関連事業

開催状況写真②（ハイライト）

### 【企画展の内容・目的】

- 紀伊半島は、日本列島の中央に位置する国内最大の半島である。三方を海に囲まれた紀伊半島の人々は、古来より海と関わりをもった。海は暮らしの場であるとともに、外部世界とつながる場でもあった。
- 紀伊半島の人々は東西に接する海を通じ、東日本（太平洋）と西日本（瀬戸内海・太平洋）との交流を行った。本展示で取り上げるのは、古墳時代を中心とした海の交流である。
- 古墳時代、倭王権は朝鮮半島との対外交渉を重視し、その中で、紀伊半島の有力者たちは倭王権の一部として水運や軍事に関わった。一方、海を介した人々の交流は倭王権や有力者だけにとどまらない、漁労や製塩といった生業をめぐる技術、そして、岩陰・洞穴への埋葬、海にかかわる祭祀には共通性が認められ、紀伊半島に住んだ人々が主体的に行った交流も存在する。
- 本展示では古墳時代を中心に、紀伊半島と海をめぐる交流について明らかにし、海の学びにつなげる。

## 1. 企画展示の内容

■開催期間：令和7年10月4日（土）～令和7年12月7日（日）

■開催場所：和歌山県立紀伊風土記の丘 第1・第2・第3展示室

■入場者数：3,451人



開催場所となった館の外観写真



企画展会場入口の写真



企画展会場内の写真（1-①）

※海の学びの様子



企画展会場内の写真（1-②）

※海の学びの様子

■展示構成は海の交流にかかわる4つのチャプターとプロローグとエピローグからなる。

- ・プロローグ：古墳時代の海についての環境を、水・形・資源の最新成果をもとに解説した。考古学よりも自然科学分析の成果を用いて、導入とした。
- ・チャプター1：古墳時代の船について、3隻の船をはじめ、絵画や船材の展示をおこなった。
- ・チャプター2：航路に関して、海の祭祀や東日本の土器から復元をおこなった。
- ・チャプター3：漁労や製塩、まじないの道具などから海を通じた交流を紹介した。
- ・チャプター4：海の新墳や洞穴墓から、海を通じた共通性やそれぞれの独自性を説明した。
- ・エピローグ：海が生む共通性と独自性について紹介し、本展示のまとめとした。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



企画展会場内の写真（2-①）  
※海の学びの様子



企画展会場内の写真（2-②）  
※海の学びの様子

■分布図上に立体的に資料を展示し、地理上の関係、資料の特徴などを示すことで、海を介した交流をビジュアルに示した。特に釣り針や鉾の分布については、その地域性と共通性を明確に示した。1500年もの前に紀伊半島で生み出された漁具が、各地に広がる様子や広がらない境界を示すことができた。

■漁網や釣り針、鉾については考古資料の特性から網や紐、羽などの有機物は残りにくい。そこで、民俗資料や現在の漁具を展示し、理解を促進した。併せて、1500年前から形が変わっていないことを示すことができた。



企画展会場内の写真（3-①）  
※海の学びの様子

■体験コーナーでは海の祭祀をモチーフにし、木に古墳時代の勾玉や剣・鏡を模した付箋紙に願いを書いて吊り下げるコーナーを用いて、海の祭祀への理解を深めた。

### 【来館者の声】

- 回答内容A（海の学びに繋がるもの）  
自分たちにとって海を神と崇め、自然を大事にする大切さを学んだ。
- 回答内容B（海の学びに繋がるもの）  
海が一番たいせつなことがわかった。
- 回答内容C（海の学びに繋がるもの）  
海と人とのつながりについて学べた
- 回答内容D（海の学び以外のものなど）  
海洋と人間のかかわり生活痕を考古資料からかいまみた点。漁労具・土器は楽しかった。

## 2. 関連事業の内容

### ■関連事業名 令和7年度休館記念秋期特別展関連講演会

【開催日時】①令和7年10月12日(日) 13:30~16:30  
②令和7年10月19日(日) 13:30~16:30  
③令和7年11月2日(日) 13:30~16:30  
④令和7年11月9日(日) 13:30~16:30  
⑤令和7年11月16日(日) 13:30~16:30

【開催場所】和歌山県立紀伊風土記の丘 ピロティ特設会場

【参加者数】280人(①64人、②57人、③74人、④40人、⑤45人)

#### 【実施内容・目的】

- 日本列島各地の海をめぐる交流に関する考古学と関連する文献史学の研究者を講師とし、各分野・各地域の最新の調査・研究成果を聴講者へわかりやすく伝える。



講演の写真



講演の写真

### 第1回講演会

■古墳時代の海に関して日本を代表する2名の講師を迎え、講師による講演内容を聞くことで、海を舞台としたさまざまな交流について学んだ。

■DNA分析や考古資料の分布、年代測定や民俗資料による使用方法の復元、埋葬方法などの検討を通じて、考古学的に「交流」と呼ばれる現象についてさらなる具体的な交流の姿について言及し「海の学び」となった。



講演の写真



講演の写真

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

## 第2回講演会

■古墳時代の海に関して日本を代表する2名の講師を迎え、講師による講演内容を聞くことで、海を舞台としたさまざまな交流について学んだ。

■文献史料からは海人の活動を通じて権力と海について講演し、「海の学び」へとつなげた。また、海の新墳からは、海の新墳の時期にも変遷があり、政治権力と海のかかわりの変化を読み解いていった。

■会場からも質問を通じて、それぞれの「海の学び」を深めていった。



講演の写真



講演の写真

## 第3回講演会

■古墳時代の海に関して日本を代表する2名の講師を迎え、講師による講演内容を聞くことで、海を舞台としたさまざまな交流について学んだ。

■朝鮮半島と日本列島との交流について朝鮮半島での倭系遺物を通じて、当時の海路や交流の姿について講演があった。また、古墳時代の船について、船材の検討を通じて船の大きさや距離、航海の目的について紹介があった。「海の学び」へとつなげた。



講演の写真



講演の写真

## 第4回講演会

■古墳時代の海に関して日本を代表する2名の講師を迎え、講師による講演内容を聞くことで、海を舞台としたさまざまな交流について学んだ。

■伊豆、三浦、房総、牡鹿の半島をつなぐ海の道について、太平洋岸の遺物や遺跡、古墳を通じた交流について講演があった。また、東西交流について、個々の遺跡や資料にとどまらず、歴史像や主体性にまで踏み込んだ海洋民の姿についての講演があった。これらの講演により

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



講演の写真



講演の写真

### 第5回講演会

■古墳時代の海に関して日本を代表する2名の講師を迎え、講師による講演内容を聞くことで、海を舞台としたさまざまな交流について学んだ。

■土器を用いた塩づくりについて、土器の形態から紀伊水道・大阪湾沿岸での出現や変遷についての説明があった。講演では、紀伊半島の遺跡の重要性が示された。また、淡路島の古墳についての講演があり、淡路の古墳が平野ごとに展開する様子や、軒丸瓦の文様から紀伊とのつながりについても紹介があった。

■会場からも質問を通じて、それぞれの「海の学び」を深めていった。

### 【来館者の声】

- 回答内容A（海の学びに繋がるもの）  
歴史の教科書でなく、個別の研究は改めて面白いと感じました。
- 回答内容B（海の学びに繋がるもの）  
発掘や文献、科学的な調査からわかったことを丁寧に組み合わせて古代のことが推察され、現代の私たちにも納得できるところが面白い。
- 回答内容C（海の学びに繋がるもの）  
海がもたらす交流の広さを感じた。
- 回答内容D（海の学びに繋がるもの）  
漁具を副葬する古墳があることを知った。
- 回答内容E（海の学びに繋がるもの）  
文献史・考古学の最新研究に触れることができたこと。
- 回答内容F（海の学びに繋がるもの）  
古代の人々や海との関係について、現在よりも古代のほうが海路での結びつきが強かったように感じました。
- 回答内容G（海の学びに繋がるもの）  
朝鮮半島南岸の遺物から日本との交流を興味深く学んだ。今と違い海を媒介として自由に交流できたと思います。
- 回答内容H（海の学びに繋がるもの）  
半島との交流や古代の船について知ることができ、海への学びが深められた。
- 回答内容I（海の学びに繋がるもの）  
海という様々なつながりがあったというのは素晴らしい。

■関連事業名 令和7年度休館記念秋期特別展 展示講座/展示解説

【開催日時】令和7年11月30日（日） 13:30～15:30

【開催場所】和歌山県立紀伊風土記の丘 研修室

【参加者数】30人

【実施内容・目的】

- 特別展の展示内容と展示の目的を講座及び展示解説形式で聴講者へとわかりやすく伝える。
- 展示講座 田中元浩（当館学芸員）「遥かなる海の祭祀と交流の姿」/展示解説



講座の写真



展示解説の写真



展示解説の写真

■特別展「遥かなる古墳時代の海へ」に関して、海の祭祀から海の交流について紹介し、海路や航路について紹介するとともに、本展示の意図を企画者から開設した。

■展示仮設では、展示品のみどころとともに、展示の方法や資料に関して「ここだけの話」を通じて、展示への理解を深めた。

■展示解説と展示講座を通じて、それぞれの「海の学び」を深めていった。

【来館者の声】

- 回答内容A（海の学びに繋がるもの）  
自分の行っている仕事や展示物への「愛」を感じました。
- 回答内容B（海の学びに繋がるもの）展示解説はいつもどおりで良かったです。  
海は隔たりを生むが、人にとって海への畏敬は共通したものと感じた。「海」を語ることは人類・平和の起点になるのではないかと思った。
- 回答内容C（海の学びに繋がるもの）  
古代の人々から海を神と崇め、自然を大事にする大切さを学べた。自分たちにとって、とても身近な存在であること現代人に足りていないものを改めて感じられた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

## 【事業全体のまとめ】

本事業では、紀伊半島を中心とした海をめぐる交流について、様々な地域の資料を用いて、紹介した。遠方からの資料を借用することができ、東日本、西日本、紀伊半島周辺といった様々な海の位相で新たに提示できた交流もある。また、古墳時代の船 3 隻をはじめとした大型資料や東京国立博物館所蔵資料借用など、普段見ることのできない資料を展示することで、展示の話題性やインパクト性を高めることができた。

こうした取り組みに対する反応としては、一般入館者数が例年に比べ盛況であった（R7：2,594 名、R6：2,153 名、R5：1,637 名、R4：1,883 名）。また、展示図録についても会期中に販売終了となり、一定の評価及び支持は得られたものと考えられる。さらに、関連事業として特別展関連講演会、展示講座/展示解説を開催した。申込者は定員を超え、参加者は 94% の充足率となった。いずれも内容の評価は「とても面白かった」という回答が上位を占め、参加者からの評価を得られたと考えられる。アンケート意見からも、海を舞台とした人々の交流や、海路の重要性、海にかかわる人間の歴史に関する再認識や新発見が多く見受けられ、事業を通じて入館者及び参加者の「海の学び」が得られた。

## 3. 主な連携・協力先について

| 連携・協力先名称           | 連携・協力の内容                     |
|--------------------|------------------------------|
| 1. 和歌山市立西和佐小学校     | 特別展開会式への 6 年生生徒の参加、テープカット    |
| 2. 和歌山県社会福祉協議会     | 「いきいきシニアリーダーカレッジ講座」での展示解説・講座 |
| 3. 紀伊風土記の丘ボランティアの会 | ボランティアへのガイド研修、展示解説の開催        |
| 4. 各博物館・地方公共団体等    | 展示資料の借用、ポスターの掲示、チラシ配布        |

## 4. 主な広報結果について

| 掲載媒体名         | 見出し、掲載日                                         |
|---------------|-------------------------------------------------|
| 1. WBS 和歌山放送  | 「WBS 和歌山ニュース」9 月 15 日（県内）                       |
| 2. わかやま新報     | 9 月 17 日（県内）、10 月 9 日（県内）                       |
| 3. テレビ和歌山     | 「テレビ和歌山ニュース」10 月 9 日（県内 午後 5 時 45 分～）           |
| 4. NHK 和歌山放送局 | 「おはよう関西」10 月 16 日（近畿 2 府 4 県 放送時間：午前 7 時 45 分～） |
| 5. NHK 和歌山放送局 | 「ギュギュっと和歌山」10 月 16 日（県内 放送時間：午後 6 時 30 分～）      |
| 6. WBS 和歌山放送  | 「和歌山県教育広報ラジオ「定期便教育の窓」10 月 28 日                  |
| 7. テレビ和歌山     | 「きのくに 21」11 月 9 日（県内 午前 9 時 30 分～）              |
| 8. 毎日新聞       | 11 月 22 日（和歌山版）                                 |
| 9. ニュース和歌山    | 11 月 22 日（県内）                                   |

以上